

『 インフルエンザと予防接種 』

秋も深まり、寒さが身にこたえる季節となり、寒さと乾燥が大好きなインフルエンザが流行する季節の到来です。昨年末から今年の初頭にかけて大流行し、ひどい目に遭った方もおいでだと思います。既に諏訪地域で集団感染が報道されていますが、今年の冬はどうなるのでしょうか？

今回は、インフルエンザとインフルエンザワクチンについて簡単に説明します。

【インフルエンザとは】

「インフルエンザ」は、インフルエンザウイルスに感染することにより発症する病気です。風邪に似たところもありますが、風邪よりも急激に症状が現れ、症状が重いのが特徴です。

感染後1～5日の潜伏期間の後、38以上の高熱、激しい咳、頭痛、筋肉痛などの症状が現れることが多いです。一般的には3～7日で快方に向かいますが、呼吸器（肺、のど）や循環器（心臓）などに病気のある場合は、重症化する事がありますので注意が必要です。

2009年までは、冬にのみ感染が広がる季節性だと考えられていましたが、2009年春から世界中に感染が拡大した「新型インフルエンザ」は、夏場でも感染が拡大しました。



【インフルエンザの種類】

インフルエンザウイルスには、A型・B型・C型の3タイプがありますが、流行の中心となっているのはA型とB型です。A型とB型には、それぞれ細かく違ったタイプのウイルスが確認されていて、数十種類あると言われていています。

A型は、感染力が強く、大流行を起こしやすく、2009年に大流行した「新型インフルエンザ」もA型です。症状も重篤になりやすい傾向があり、過去に大流行を起こした「スペインインフルエンザ」「香港インフルエンザ」などは全てA型でした。

B型は、A型に比べると感染力が弱く、限られた地域での流行にとどまり、症状も比較的軽くすむことが多いです。

C型は、鼻かぜ程度の軽い症状ですむ場合が多く、今のところ問題となっていない。

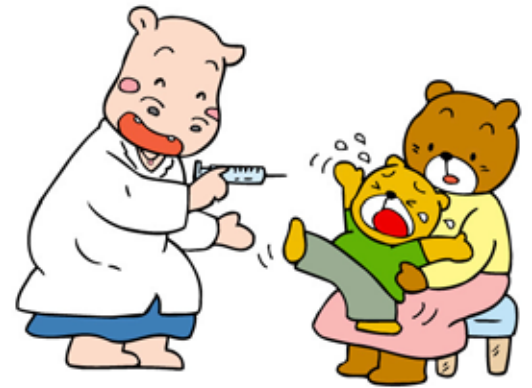
ウイルスではありませんが、インフルエンザ菌と呼ばれる細菌もいます。昔はインフルエンザ流行の原因と思われていたため、流行の原因がウイルスであることが判明した後もインフルエンザの名前が残っています。異なるタイプの菌があり、小児の気道感染症の原因菌となる場合、重篤な髄膜炎などを起こす場合などがあります。重症感染症（Hib感染症）の予防のためにワクチンは定期接種の対象となっています。

【インフルエンザワクチン】

インフルエンザの予防にある程度の効果が期待できるのは、ワクチンの接種です。接種により完全に感染を防ぐことは不可能ですが、接種により体内にできた抗体が働いてウイルスが増えるのを抑えることができ、症状を軽くすることが期待されます。

接種後、効果が現れるのに2週間程度かかり、効果は5ヶ月間続くと言われていています。13歳未満の小児は、2～4週の間隔で2回、その他は基本的には1回となります。

ワクチンは毎年流行が予測される型を混合して製造されます。昨年度までは、A型の中から2タイプ、B型の中から1タイプが混合された製品でしたが、今年度よりA型2タイプ、B型2タイプの混合となります。これに伴い、ワクチンの値段が上がり、接種料金も変更となりました。



【インフルエンザワクチン接種料金】

当院におけるインフルエンザワクチン接種料金を掲載しておきます。接種可能日等の詳細は、受付にてご確認下さい。

成人：1回3,600円

小児：13歳未満（2回接種する場合）

1回目3,000円

2回目2,000円

（長和町は、1歳～中学生

1回1,000円）

65歳以上及び長和町補助対象者：

1回1,000円

（市町村により

補助の対象・金額が異なります）

